

平成 28 年 12 月 22 日

富士箱根伊豆地域の環境保全を目指したEV、FCVの
普及促進に向けた取組みについて

山梨県知事 後藤 斎

第5回山静神サミットにおいて、高い環境性能を有する電気自動車（EV）の普及を進めることにより、富士箱根伊豆地域の良好な環境の保全を図ることなどを目的として、「富士・箱根・伊豆EVタウンプロジェクトに向けた検討」を行うことが決定され、三県でEVの普及啓発活動や充電インフラに関する情報提供等を連携して行っております。

国においては、水素社会の実現に向けた取組みを加速するため、本年3月に「水素・燃料電池戦略ロードマップ」の改訂を行い、また、先月8日には温室効果ガス削減の国際枠組であるパリ協定が国会でも承認されました。更に、自動車メーカーからは燃料電池自動車（FCV）が市販開始されるなど、次世代自動車を取り巻く環境は大きく変化しております。

FCVは二酸化炭素をはじめとした大気汚染の原因となる物質を排出しないなどの長所がある一方で、車両価格が高額であることや、富士箱根伊豆地域をはじめ、地方では水素ステーションの整備が不十分であることなど、普及にあたって取り組むべき課題もあります。

富士箱根伊豆地域の環境保全を益々推進するためには、EVに加え、FCVの普及にも取り組む必要があると考えられることから、三県が連携してこれらの普及促進に向けた取組みを進めることを提案します。

（具体的な取組案）

- EV及びFCV普及のための情報交換、普及啓発活動の実施等
- 充電インフラや水素ステーションの位置情報等の相互提供
- 富士箱根伊豆地域での水素供給基盤整備に向けた検討